

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	やまぐち としかつ 山口 利勝	所属	山口福祉文化大学
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会 難聴者の心理学的問題を考える会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 11 名 (うち認定心理士 1 名) 非会員 4 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本研究会は、難聴者のさまざまな心理学的問題について検討することを目的としている。</p> <p>難聴者は日本において潜在的には 1 千万人程度はいると言われているが、当事者が問題を自覚していなかったり、あるいは周囲に明らかにしていなかったりするために、難聴者の抱えるさまざまな問題が理解されていないという現状がある。</p> <p>本研究会では、聞こえや聞き取りに困難があるにもかかわらず、難聴に対する理解や配慮が十分ではないという現実から生じる心理学的問題について考え、難聴者に対する心理学的研究の方向を探りたい。研究会のメンバーは、障害児教育、知覚心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学などさまざまな領域で難聴について研究をしている研究者が主なメンバーとなっている。</p> <p>本年度は、メーリングリストを通じて会員同士が議論、情報交換を行い、難聴者のもつ心理学的問題について考えた。活動の成果は、2011年度日本心理学会の自主ワークショップ「難聴者の心理学的問題を考える」にて報告した。ワークショップの開催により、難聴にまつわるさまざまな問題について情報交換を行うことができ、会員がさらに増加した。</p> <p>今後は、本年度の研究会成果をふまえて、難聴者の心理的葛藤が発生する状況などをさらに詳細に検討し、難聴者とかかわる周囲のひとつひとつがどのように対応すればよいのかについても具体的な対策を考え、その成果をワークショップで報告する予定である。</p>		